

競 技 注 意 事 項 (案)

1. 規則について

本大会は、2016年度日本陸上競技連盟競技規則及び本大会申し合わせ事項により行う。

2. 練習場について

- (1) 補助競技場及び主競技場外で練習を行うこと。補助競技場での練習については、投擲競技が行われているため競技に支障をきたさないように練習すること。主競技場での練習は禁止とする。
- (2) 投擲練習は現地招集後に投擲審判員主任の指示のもとで行うこと。それ以外は禁止する。

3. 招集について

- (1) 一次招集は、雨天練習場の競技者係にて行う。
- (2) 招集は、競技者本人が受けること。なお、一次招集の前に各自腰ゼッケンを取りに来ること。
- (3) ゼッケンを付けたユニフォーム（上下）及びスパイクを持参し、ユニフォーム（上下）・ゼッケン前後（跳躍種目はどちらか片方）・スパイク（使用する種目のみ）・腰ゼッケンの確認を受け（代理人の場合は『重複出場届の控え』を競技者係に提示する）、コール用紙のレーンナンバーを本人が丸で囲み、一次招集の完了とする。
- (4) 5000m以上のトラック種目については(2)の一次招集の完了後に、別ナンバーカードを配付するので、最終コールまでに必ず胸・背に安全ピンでユニフォームにつけること。
- (5) 一次招集時間は、下記の通りである。

種 目	開 始 時 刻	完 了 時 刻	最終(現地)コール
トラック・リレー競技	競技開始 50 分前	競技開始 30 分前	競技開始 10 分前
フィールド競技	競技開始 60 分前	競技開始 40 分前	競技開始 30 分前
棒高跳	競技開始 90 分前	競技開始 70 分前	競技開始 60 分前

- (6) リレー競技の招集は、競技者4人とも受けること。
- (7) リレーオーダーについては、必ずプログラムの当該種目に記載されている競技者を2名は含むこと。
- (8) リレーオーダー用紙は、一次招集開始時刻の1時間前までに競技者係に提出すること。
- (9) 同一の時間帯に2種目以上出場する競技者は、一次招集開始時刻までに重複出場届を競技者係に提出し、代理人はその控えを持って招集を受けること。尚、代理人が招集を受けない場合は失格とする。
- (10) 棄権者届・リレーオーダー用紙・重複出場届は競技者係及び受付にて配布する。

4. 棄権について

- (1) 大会前の棄権の届け出については、大会所定の用紙に必要事項を記入し、4月7日(木)18時00分までに関西学連事務所宛にFAXで送信すること。
- (2) 当日棄権は原則として認めない。やむを得ず棄権する場合は、棄権者届を大会本部の総務に提出し、承認を得ること。尚、棄権者届には、監督・本人の自筆サインを署名すること。その後、総務より棄権者届の下半分を受け取り、一次招集完了時刻までに競技者係に提出すること。
- (3) コール漏れ(現地招集含む)は棄権とみなし、出場を認めない。

5. 競技者の服装について

- (1) リレー競技に限らず、同一大学の選手は色・柄ともに同一のユニフォームを着用すること。
- (2) ナンバーカードは、平成28年度学連登録番号のナンバーカードを使用し、必ずユニフォームの胸部・背部に、折り曲げたりせず明瞭に付けること。但し、跳躍種目については、いずれか一方だけでよい。
- (3) トラック競技では競技者係で配付する腰ナンバーカードを右腰部に明瞭に付けること。1500m、5000m、10000m、3000mSC、4×400mについては腰の両側に付けること。尚、腰ナンバーカードは、競技終了後ゴール地点で返却すること。また、途中棄権などで競技を中止した場合も忘れず返却すること。
- (4) 競技場は全天候舗装であるので、使用するスパイクのピンの長さは、トラック・フィールド共に9mm以下とする。但し、走高跳、やり投げについては12mmまで使用可とする。

6. 競技用具について

- (1) 競技用具は、原則として競技場備え付けの物を使用すること。
- (2) やりは、検定を受けて承認された物のみ使用できる。検定の受付は、競技開始1時間30分前に北側器具庫前（100m スタート付近）で行う。
- (3) 棒高跳用ポールは、各自で準備すること。
- (4) やり・ポールの輸送については、各大学で責任をもって行うこと。
- (5) 競技場の器具を破損した場合は、当該競技者の所属する大学より必要代金を徴収する場合がある。

7. トラック競技について

- (1) トラック競技の計時は写真判定（1/100 秒）とする。但し、装置に故障などのトラブルが発生した場合、そのラウンドの全ての組を手動計時（1/10 秒）とする。
- (2) トラック競技におけるプラスアルファの決定は 1/100 秒単位とする。尚、1/100 秒単位で同着だった場合、写真を拡大して 1/1000 秒単位をみる。それでも同タイムかつ同着の場合、抽選を行う。
- (3) レースにより予選、決勝で 9 レーン全てを使用することがある。
- (4) 風について、ホームストレートの向かい風が極端に強い場合、総務・審判長などの協議にて、100m・200m・110mH・100 mH をバックストレートで行う場合もある。
- (5) 5000m・10000m に関しては、制限時間を設ける。各レーススタート後、次に記載している時間の経過時点で、残り一周に達しなかった競技者は、その週のフィニッシュラインで競技を中止させる。
 5000m・・・男子 18 分・女子 22 分
 10000m・・・男子 36 分・女子 43 分

8. 不正スタートについて

- (1) 今大会はフライング 1 発失格とする。
- (2) スタートの号令は英語で行う。
- (3) 不正スタート発見装置は使用せず、目視で判定する。
- (4) 不正スタートの判定に対する参考材料として、ビデオ撮影を行うことがある。

9. フィールド競技について

- (1) 走高跳・棒高跳のバーの上げ方は下記の通りとする。

	種目	ピット	試技開始	備考
男子	走高跳	A ピット (対校)	1m60cm	2m05cm まで 5cm 刻み、以降 3 c m 刻み
		B ピット (OP)	1m85cm	
	棒高跳	A ピット	3m20cm	4m40cm まで 20cm 刻み、以降 10 c m 刻み
女子	走高跳	A ピット (対校)	1m35cm	1m60cm まで 5cm 刻み、以降 3 c m 刻み
		B ピット (OP)	1m30cm	1m55cm まで 5cm 刻み、以降 3 c m 刻み
	棒高跳	A ピット	2m20cm	2m80cm まで 20cm 刻み、以降 10 c m 刻み

- ① 競技開始の高さを 8 人以上クリア出来ないと判断した場合、総務・審判長などの協議にて競技開始の高さを下げる場合もある。（雨天の場合などは審判長の判断により変更することがある）
- ② 競技の結果に応じてジャンプオフを行う。
- ③ 試技者が 1 人となった場合のバーの上げ方は、本人の希望により決める。
- (2) 三段跳の踏切板の位置は、男子対校の部が 13m、オープン部の部が 12mで行う。女子は対校の部・オープン部の部共に 10mで行う。
- (3) やり投・砲丸投は主競技場で、円盤投・ハンマー投は補助競技場で行う。
- (4) フィールド種目についての公式練習は 2 回とする。投擲練習は、投擲審判員主任が時間を考慮した上で決定する。
- (5) フィールド内での競技以外でのやりの突き刺しは禁止する。練習は審判の指示に従って行うこと。
- (6) 跳躍種目及び投擲種目において競技者が 8 人以下の場合は、3 回までの試技が無効（ファウル）であっても、以降 3 回の試技を認める。

10. 競技について

- (1) トラック競技の決勝の組み合わせについて、レーン順は主催者側が公正に抽選し、決定する。短距離種目のゴール後は、競技者の安全のため自分の割り当てられたレーンを走ること。
- (2) 役員・審判・学生審判員・学生補助員及び選手以外のグラウンドへの進入は一切禁止する。グラウンド内での競技者付き添い・ビデオ撮影などは一切禁止する。また、応援はスタンドからのみとする。
- (3) カセットレコーダー・ラジオ・携帯電話・音楽機器・その他の通信機器などを競技場、及び招集場内に持ち込むことは禁止する。
- (4) 競技終了後、競技者は、指示に従って速やかに退場すること。尚、トラック競技終了後、退場する際に大会本部前を通行しないこと。
- (5) 競技中の選手に対する助言は2016年度日本陸上競技連盟競技規則第144条に従う。また、フィールド競技に関しては現場の審判員が許可を与えた上でコーチ席にアドバイスを聞きに行ける。しかし、審判員の指示に従わない場合は選手・コーチに警告を与え、さらに続いた場合は審判長・総務等で協議し対処する。

11. オープン種目について

- (1) 全種目、次のラウンドは行わない。

12. 開閉会式・表彰について

(1) 開閉会式について

参加大学は、開閉会式の開始10分前に部旗を持った旗手を先頭に整列すること。

(2) 表彰について

- ①各種目3位までに入賞した競技者は表彰を行う。競技結果発表後、大会本部の表彰係まで来ること。
- ②表彰の服装は上：所属大学のチームユニフォーム、下：チームジャージと指定する。
- ③大会最終日の競技終了後、閉会式にて京都インカレ最優秀選手の表彰を行う。最優秀選手に選ばれた競技者（男女1名）は、表彰係の指示に従うこと。

(3) 各種目の対校得点は下記の通りとする。

順位	1位	2位	3位	4位	5位	6位	7位	8位
対校得点	8点	7点	6点	5点	4点	3点	2点	1点

13. 抗議の申し立てについて（競技規則第146条）

- (1) 競技進行に起きた行為、または順位に関する抗議は、その競技者あるいはチームの監督から結果が正式に発表（アナウンス）されてから決勝の場合は30分以内、次のラウンドが行われる競技では15分以内に、口頭で審判長に申し出なくてはならない。

14. 競技場使用について

- (1) メインスタンド・サイドスタンドの開門は8時30分、閉門は両日、競技終了もしくは閉会式終了の30分後とする。
- (2) 補助競技場の開門は両日8時00分、閉門は17時00分とする。ただし、準備、競技状況によって多少前後する場合がある。
- (3) メインスタンドにおける集団応援は禁止する。集団応援を行う場合はサイドスタンドかバックスタンドで行うこと。
- (4) やり、ポールを競技場に置いておく場合は、受付に申し出ること。ただし、それらが盗難・破損にあった場合、主催者側は一切責任を負わない。また、大会終了時には必ず持ち帰ること。
- (5) 競技場内に毛布やシート類を置いて帰ることは禁止する。閉門の際、私物は全て処分する。
- (6) リレーなどでマーキングに使用したテープは使用者が責任を持って撤去すること。
- (7) 芝生内は全て立ち入り禁止とする。
- (8) 横断幕・のぼりの設置場所はサイドスタンド・バックスタンドのみ認める。また、テープ等は使用せず、必ず紐で結ぶこと。
- (9) 荷物については各自で保管すること。紛失・盗難に関して、主催者は一切責任を負わない。
- (10) 雨天練習場は飲食禁止とする。
- (11) ウォーミングアップは補助競技場で行うこと。主競技場でのウォーミングアップは禁止する。

15. その他

- (1) 本大会参加校は、主催者からの要請に基づき、定められた数の学生審判員及び学生補助員を派遣しなければならない。尚、学生審判員はブレザーもしくは学生服を着用し、配付されたバッジを胸に付けること。学生補助員はクラブ指定のジャージを着用すること。定められた人数を派遣しなかった場合、また、その業務を果たさなかった場合はその大学の以後の出場を中止させる場合がある。
- (2) 記録は競技場 1 階正面玄関付近の記録掲示板に掲示する。
- (3) 本大会注意事項及び学生競技者としてのマナーを逸脱した行為が見受けられた場合は、その学生の所属する大学の以後の出場を中止させ、処罰を与える場合がある。
- (4) 競技場内に立ち入る際、競技場保護のため革靴・ヒール等は一切禁止する。学連より特別の指示がない限りアップシューズもしくはスニーカーを着用すること。
- (5) 競技中に発生した障害、疾病についての応急処置は主催者側で行うがそれ以降の責任は負わない。ただし、2016年度(公社)日本学生陸上競技連合普通会員は原則としてスポーツ安全保険に加入しているので、この保険が適用される場合がある。
- (6) 競技終了後は、速やかに競技場から退場すること。
- (7) 駐車場の駐車可能台数には限りがあるので、できるだけ公共交通機関を利用すること。
- (8) バイク・原動機付自転車等での入場は一切禁止する。バイク・原動機付自転車等で公園内に入場した場合、厳重に処罰する。
- (9) 雨天練習場での場所取りは禁止とする。
- (10) その他、不明な点については大会本部まで申し出ること。

関西学生陸上競技連盟